



松くい虫抵抗性クロマツの さし木苗生産が可能です

マツノザイセンチュウの
接種検定不要

東日本大震災以降

海岸防災林の機能強化

松くい虫に抵抗性を持つ
クロマツの植栽が必要です

抵抗性クロマツの需要増大

従 来：実生苗に病原体のマツノザイセンチュウを接種して、健全であった苗を出荷

新技術：抵抗性が確認された健全苗を母樹として、さし木で増殖

→ 実生苗とさし木苗で抵抗性クロマツの生産量アップ

さし木増殖のポイント



1. 若い苗を母樹として活用

マツノザイセンチュウを接種して生き残った実生苗を母樹にする

2. 発根性に優れる品種を活用

川内 290 号や大瀬戸 12 号の家系苗で高い発根率

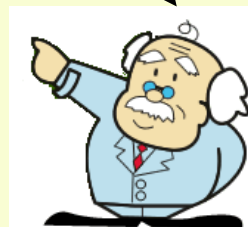
3. 下部枝を優先的にさしつけ

母樹苗の下半分から得られるさし穂で高い発根率

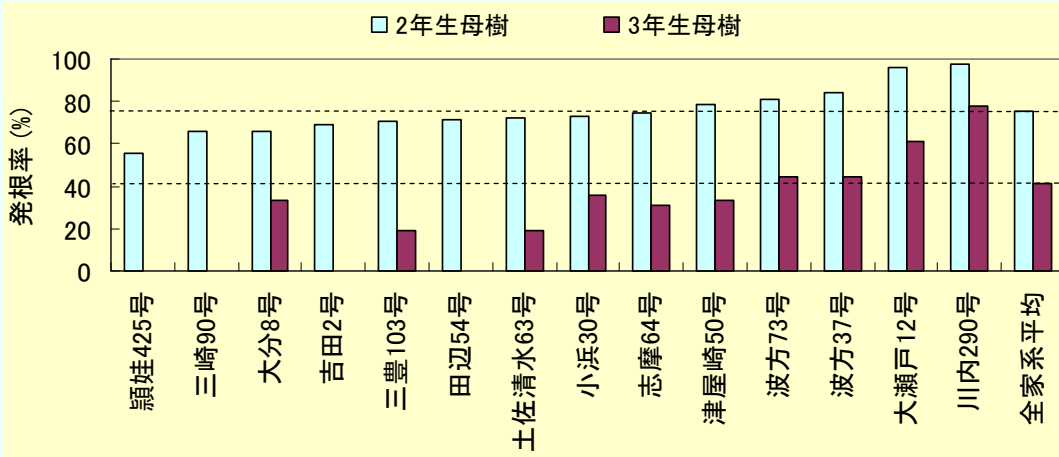


さし木によって発根した苗

裏面には、
詳しい説明が
あります。



母樹齢別・品種(家系)別発根率

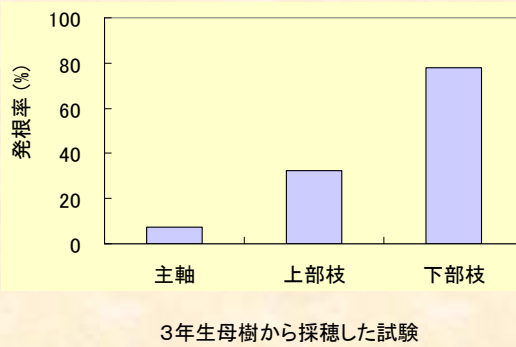
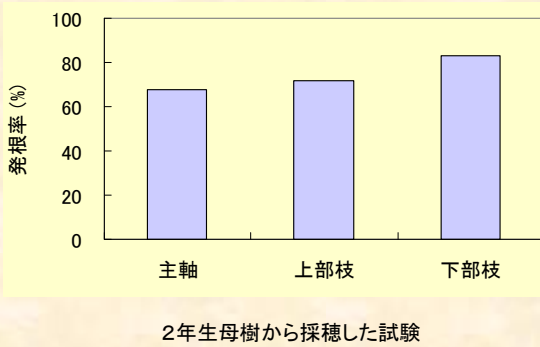


2年生苗を採穂母樹とした場合、3年生母樹よりも発根率が高くなりました

母樹の品種(家系)によって、発根率が異なりました

発根率の高い品種の若い母樹を使うと得苗率が高まります

母樹樹冠からの採穂部位別発根率



母樹の主軸や上部枝よりも下部枝のさし穂で発根率が高まりました
3年生母樹では、その傾向が顕著でした

下部枝を使うと得苗率が高まります

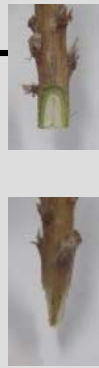
さし木手順



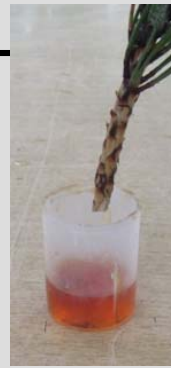
採穂



穂づくり



基部の返し切り



発根促進剤浸漬



さし付け、ガラス室内で管理

発根苗



新梢から伸びた針葉の長さ

発根量

さし穂の新梢から伸びた針葉の長さと、発根量に正の相関がありました

さし木の手順は簡単です

針葉の観察により、さし床から掘り取らなくても発根量が予測できます

発行日：平成28年9月 日
編集・発行：静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅2542-8
TEL (053)583-3121 FAX (053)583-1275

本成果は、研究課題「津波に強い多機能海岸防災林に対応した苗木生産と造成管理の技術開発」(平成26~30年度)によるものです。